

平成31年度（令和元年度） **全国学力・学習状況調査の結果について**

令和元年9月26日

岡谷市教育委員会

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。（本年度は4月18日実施）

1 調査の目的（文部科学省による調査）

- ①国の義務教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- ③そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

◎教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |
- 調査問題では①と②を一体的に問うものとする

※昨年度（H30年度）までの国語 A 及び算数・数学 A「主として『知識』に関する問題」と、国語 B 及び算数・数学 B「主として『活用』に関する問題」の区分を見直し、一体的に調査問題を構成した。

※今年度は、中学校において、初めての英語調査を実施した。

◎生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に関する調査	学校に関する調査
------------	----------

3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）**【教科に関する調査】**

- 小学校では、各校の授業改善が進み、国語・算数ともに正答率が県・全国平均を上回っています。
- 中学校では、国語・数学ともに正答率が県・全国平均を上回っています。また、英語は県・全国平均と同等の正答率となり、各校の授業改善の成果が見える結果となっています。

【質問紙調査】

- 小学校では、「教師からよいところを認めてもらったり、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてもらったりしていると思う」の割合が高くなっています。そのことが、「国語・算数の学習が好き。国語・算数の勉強は大切。授業の内容がよく分かる」の割合の高さにつながっているのではないかと思います。
- 中学校では、「将来の夢や目標をもっている」「家で自分で計画を立てて勉強している」の割合が高くなっています。そのことが、「国語・数学・英語の勉強は大切。国語・数学・英語の学習は将来、社会に出たときに役に立つと思う」の割合の高さにつながっていると思われまます。
- 小学校、中学校ともに、各教科の問題に対して、最後まで解答を書こうと努力した割合が高くなっています。ねばり強く最後まであきらめない姿勢が伺えます。

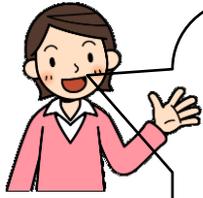
4 今後の課題

- ◇一人一人の実態や課題の把握と、一人一人に即した支援の実施（小学校、中学校）
- ◇宿題等の家庭学習に加え、自分で計画して行う学習の時間及び読書時間の拡充（小学校、中学校）

この分析を、各校の教育活動と授業改善に活かしてまいります。

伸びる岡谷の子

《学校訪問の様子から》



学力向上
アドバイザー

未知の問題や学習内容に出会い、知的好奇心をくすぐられた子どもたちは、「解きたい」「できるようにになりたい」「わかりたい」といった気持ちになっていきます。「どうやるの」「こうかなあ」といったつぶやきが起ったり、隣の友と自然に会話を交わしたりする姿が生まれたりして、子どもたち自らが学ぶ必要感や必然性をもった学習が進んでいきます。

身近な地域素材を生かした学び（岡谷スタンダードカリキュラム）を通して、子どもたちは多くの「ひと・もの・こと・ところ」とつながっていきます。その中から生まれた「何で?」「どうして?」という「問い」は、子どもたちの追究のエネルギーとなります。学ぶことの意欲が高まった子どもたちは、考えや思いを伝え合いたくなっていきます。



学力向上
専門官



学力向上
アドバイザー

授業のユニバーサルデザイン化を取り入れることで、教室の中のどの子にも分かる・できる学習となっていく。そのため、主体的・対話的で深い学びが生まれ、確かな力をつけていきます。こうした学習の連続と積み重ねが、子どもたちの「できた・わかった・つかえた」という大きな自信となり、成長に欠かせない自尊感情を育てていきます。

先日の学校訪問で出会った姿から…①相互指名で当たったAさん。にこやかな表情で「考え中!」。②資料提示後に「何がいるのか教えて」と教師。次々と自由に出る意見。安心して授業に浸りこむ子どもたち。温かな学級経営は、確かな居場所を保障し、失敗しながら学ぶ心地よさを醸成していきます。子ども目線と大きな包容力が大切です。



学力向上
アドバイザー

これが学力向上のポイント

① 自分で計画し取り組む家庭学習に挑戦しよう

□授業での理解がより確かなものになるよう、授業の内容と結び付けた家庭学習や、「なぜなんだろう」という疑問や課題を解決するために自分で計画し取り組む家庭学習を進めよう。

② 様々なジャンルの本や新聞などを読もう

□推薦本の紹介やブックトーク、読み聞かせなどを通して様々なジャンルの読み物に触れたり、読書量を増やしたりしていくことで想像力や表現力を磨き、自己形成の基盤をつくらう。
□新しく知ったことや分かったことを友だちや家族に語り、伝えることや聞いてもらうことの心地よさを味わおう。

③ ふるさと「岡谷」のよさや魅力を発見しよう

□様々な教科で体験的探求的な活動を大切にし、自分で課題を立て情報を集め整理し、調べたことを発表するなどし、日常生活で活用が図られるような学習活動に取り組んでいこう。
□ふるさと岡谷に根ざした学習「岡谷スタンダードカリキュラム」で地域とつながり、岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」と学ぶ中で、自らの思考力や判断力を高めよう。

④ 教員の授業力向上

□中学校区や教科ごとの中中接続・連携を進め、学習の土台となる学級づくりや授業改善を図る。
□課題解決的な授業、子どもがかかわり合って発言する授業、考えたり書いたりする時間を確保した授業などをさらに進め、自ら調べ、自ら考え判断し、自分の言葉で表現する力の向上に努める。
□個々の教員が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図り、互いの授業を公開し合って授業力の向上に努める。
□校長会、教頭会、市学力向上推進委員会等が中心となり、定期的に「現状と課題」の分析を丁寧に行い、学力向上専門官及び学力向上アドバイザーと連携し、授業改善を図る。
□日々の授業に生きる研修(教職員研修会、他校他県研修、各種授業研究会等)を進める。

学力と心の成長は、車の両輪